

谷原中学校
保健室No.21
25、10、22

溶連菌感染症について・・・

2年生を中心に少し前から風邪による欠席や体調不良が目立っていました。受診をして風邪と診断される場合がほとんどでしたが、感染の人数をみると、少し感染力の強い風邪の細菌がウイルスなのかな?とも思っていました。

谷原中でも風邪に似た症状で、数名「**溶連菌感染症**」と診断されたと報告がありました。風邪かと思っていたら溶連菌感染症だったということもあるかもしれませんので、具合が悪くて病院へ行くときは「学校で溶連菌感染症の生徒がいるそうです」と伝えてください。お医者さんの判断で検査をしてくれるかもしれません。溶連菌感染症だと、飲む薬の種類や期間が違うのと、自然に治っても、再発して症状が出ることもあるので注意が必要です。

症状

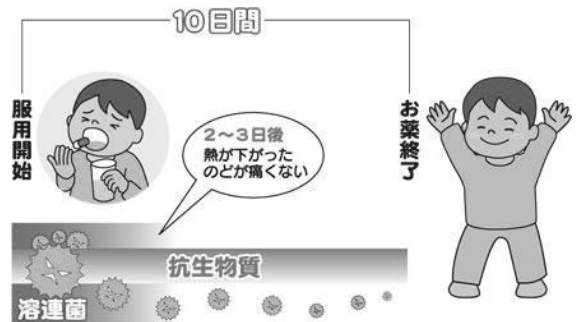
発熱 (38度～39度)
のどの痛み
舌が赤くなる (ならない人もいます)
頭痛
咳や鼻水の症状は少ない

検査方法

のどについた細菌を採取して検査します。
インフルエンザ検査と同じ方法です。
病院によっては尿検査、薬を一定期間飲みきった後、体から細菌がいなくなったことを確認するためにもう一度のどの検査をすることもあります。

服薬方法と合併症

溶連菌感染症と診断されたら、決められた抗生剤を10日間飲まなければいけません。それは、時にリウマチ熱や腎炎といった合併症を引き起こすことがあるからです。なので、症状が治まっても薬は飲み続けます。



溶連菌感染症は「出席停止」になります。
出席停止期間は、医師が登校を認めるまでです。診断されましたら必ず学校までご連絡ください。